

青森杉が

活きる家



2011年度
— 第4回 —

あおもり産
木造住宅
コンテスト
作品集

八戸市
桔梗野の家



家族が
集う木の家



あおもり産木造住宅コンテスト
実行委員会

青森杉が活きる家

屋根勾配なりの登り梁が2階まで続くリビングの吹抜

道路から見たときに威圧感を感じさせないよう、低いフォルムを心がけ、大屋根のように屋根を構成しました。新材の部分は薄いベージュを基調に目立たないようにし、木の部分を引き立たせました。木の木の目を活かすよう、塗装は薄めに数回に分けて塗ったものです。

完成直前に東日本大震災に遭いましたが、耐力壁と金物の効果で内装も割れることなく、何ら損傷は見られませんでした。

玄関前は目隠しを兼ねて杉の格子で意匠を整え、外壁の一部にヒバの羽目板、破風にも1寸厚のヒバを廻し、軒天井には杉の板を張っています。

1日を通してリビングダイニングには陽が射し、ゆったりとしたそのスペースに、上を見れば屋根勾配なりの登り梁と杉羽目板の天井が2階ホールまで続きます。

当社ではこれまで丸太八角削りの梁は赤松を使用してきましたが、今回は9メートルを超える長さの梁を使うため、その素材の良さを活かすために杉丸太を採用。天井の羽目板も杉で張り、節のある

部分も積極的に使いました。和室の柱はヒバを用い、杉で組む根太天井とした。和室建具もヒバで合わせ、床板は赤松と、水廻りには栗の板。赤松の柔らかさと、水に強い栗、適材を適所に配しました。

青森県内でも、特に津軽地域では杉は安価な材料であるとして、ヒバやケヤキが重宝される傾向があるようです。青森県の杉は全国第4位の保有数を持ちます。これを活かさない手はありません。まして今回、9メートルを超える丸太が容易に見つかったことは、県内にそれだけの良木の杉があるということです。

木造住宅に使用される木材の大部分は構造材です。仕上げとして張るだけの木材では、使用量は知れています。こうして大きな材で組める職人の技量と知恵こそ、県産材を建築の中で普及させる一番の手段であると感じます。

また、家具建具も県内の職人による手作りであり、基礎から屋根まで全てが県内の職人の手になる。地産地消とは材料のみで成り立つものではないと考えます。



天井を低く抑えて空間に安定感を与えている



陽光を浴びてアメ色の光沢を放つアカマツ

講評

この作品は、木づかい、木へのこだわりが感じられる作品です。和室にスギを多用し、また、無垢の木材をシンボリックに使用し、天然木並の高級感を出しているほか、アカマツ床材はやわらかく感じられ、スラブヒーターとの組み合わせも良

く、また、色合いが良く、隙間が空かないような技術的進歩が見られます。

天井、梁、桁への施工に充実感があり、地元の多種の木材を有効に活用していること等が高く評価され、最優秀賞に選ばれました。

(川島委員長)



- 所在地／八戸市
- 県産材使用量／39.2㎡
- 県産材使用率／96.5%

- 設計者／(株)大山建工一級建築士事務所
住所／〒039-1161 八戸市大字河原木字千刈田7-1
TEL.0178-21-3055 FAX.0178-21-3033
- 施工者(応募者)／(株)大山建工
住所／三戸郡五戸町大字切谷内字淋代14-1
TEL.0178-68-3353 FAX.0178-68-2454
- 木材調達先／(有)山内製材所
TEL.0178-56-2746

家族が集う木の家

自然豊かな七戸町の景観に合わせて家の外壁は木目模様サイディングを使用し、継目は無垢のスギの幕板（幅広の板を横に使用したもの）で、わらかさを表現しています。

玄関前と庭に面する南面へつながる1間幅の軒は下屋造りで、桁はスギの8寸角で8メートルの長材を使い、桁と軒はクリの6寸角の柱で支えています。

この下屋は、夏は太陽の位置が高いので日よけになり、冬は低いのでリビングに日差しが入り、風雪・積雪への対応と省エネ効果もあります。軒が家の外壁を守り、耐久性の向上にもつながります。

玄関の土間は6畳分の広さがあり、生活を楽しむ場として、また夏は畑で取れた野菜の収穫の作業場としても使います。小上がりは丈夫なケヤキで造り、茶飲み場としても活用できます。奥様の手づくりのこぎん刺しや家族写真などを飾れるようにスギの温もりある飾り棚が沢山あり、「ギャラリー」と茶飲み場の空間になっています。

室内の空気はとても爽やかで、スギの香りが良く、腹の底までいっばいに深呼吸でき、家の中で森林浴をしているようで、木の香りと温もりがいつぱいの家です。床材は厚さ3センチの無垢のスギ板を使用し、木のぬくもりが素足から感じられます。内壁も天井も無垢材を張っています。1階から2階まで立ち上がる太い通し柱は8寸角のスギです。

木をふんだんに使い、太い材料・長材を多く使用して古来からある頑丈な組み方で造られており、職人の技術が活かされています。木の特徴を掴み、家の仕様箇所に合った木の種類を使用、長く住み継がれる家造りをしています。登り梁の継ぎ手は金輪柱接ぎ手で、腕の見せ所です。

暖房は薪ストーブ1台で、暖かさが家全体に行き渡るように設計しています。ストーブの背一面に「十和田石」を貼り、薪ストーブから出た熱が輻射熱となって放熱され、遠赤外線効果とマイナスイオン効果がさらに生活を快適にしています。

（詳細26ページ）



太い木材で頑丈に組み立てられた吹抜部分



アカマツの登り梁が力強さを与えている

講評 この作品は、将来の家族構成にも対応が可能な住宅であり、安全・健康・快適な生活への木づかいが感じられます。東・南側の軒の出し方に工夫が見られるほか、ふんだんに木が使われており、木々を感じられ、全体的に温もりを感じられます。施工坪単価が50万円台前半であり、県産木造住宅のスタンダードモデルと成り得る作品であることが等が評価され、優秀賞に選ばれました。

(川島委員長)



- 所在地／上北郡七戸町
 - 県産材使用量／31.16㎡
 - 県産材使用率／89%
-
- 設計者／設計工房プランズ
住所／上北郡七戸町字七戸271-4
TEL.0176-62-4013
 - 施工者(応募者)／有限会社岩木建設
住所／〒034-0107 十和田市大字洞内字井戸頭175-1
TEL.0176-27-2906 FAX.0176-27-3259
 - 木材調達先／株式会社わかもと
TEL.0176-28-2244

八戸市 桔梗野の家

八戸市、桔梗野団地の高台に建っています。敷地の斜め前方に新幹線や森を望むことができます。その眺望の良い方向に向かって大きな窓を開け、光景色を取り込んでいます。

この街区では、道路をはさま住宅同士が向かい合っているため、きゅくつな感じを受けます。そこで、道路に面するメインのサッシを24度角度をつけることで、この緊張感を和らげています。また建物の高さを低めに押さえ、周囲の住環境に配慮しています。

青森県産の木材の使用数量を増やすためには、豊富な「スギ」の積極活用は欠かせません。そのため、柱・母屋・胴縁といった構造体・下地材に使うことで、より多くのスギを活用しています。土台には腐れに強い「ヒバ」を活用。県産材を「縁の下の力持ち」に当たる部位に使うことで使用数量の拡大に努めました。

リビングには、主役となるヒバ柱があります。この丸柱に子供が登ったり、猫が飛びついたりと、「象徴的な存在」となっています。県産材を積極活用する場合、立派な柱・梁を見せるために役物部材(形の整った特殊材)を多用しがちですが、「県産材を丁寧に使うこと」「コストバランス」を考え、その象徴として1本のヒバ丸柱を建てました。この1本で、県産材活用の道筋を表現しました。

低炭素社会に向けて3・0kwhの太陽光発電パネルを設置しています。八戸市は、日射量・気温条件からすると、東京・仙台よりも発電効率が高い地域です。積極的に太陽光発電パネルの設置を勧めています。また、2階上部の庇を1・8メートル出すことで、夏の日差しをカットし、冬季節は日射を部屋の内部に取り入れるよう省エネ設計をしています。



アイランドキッチンに面したリビングに明るい日射が射し込む



2階上部の庇を1.8m出し、夏は日差しをカット、冬は日射を内部に取り入れるよう省エネ設計している



家のシンボルともなっているヒバの丸柱

講評 この作品は、太陽光、庇による日射のコントロールなど、環境への配慮が良く、木材・鋼板・コンクリート・ガラス等の素材を活かした融合されたデザインです。外壁のガルバリウムと内部の木材との意外性が楽しく、また、木材使用のバランスが良く、木づかい部分のデザインがすっきりしていること等が評価され、優秀賞に選ばれました。

(川島委員長)



- 所在地／八戸市
- 県産材使用量／19.7㎡
- 県産材使用率／60%

- 設計者(応募者)／(有)山本プランニング一級建築士事務所
住所／〒030-0944 青森市筒井3-17-3
TEL.017-738-8452 FAX.017-738-8492
- 施工者／有限会社佐々直建築
住所／十和田市大字相坂字白上248-144
TEL.0176-23-7238
- 木材調達先／有限会社島木材工業
TEL.0175-37-2071

雄大な景色を楽しむ家

「家づくり」の原点に立ち返ることを目的として「マサカリダテ」の儀式を取り入れました。

家の構造の要の大黒柱となる大木スギの伐採に施主も加わっていたとき、自然の恵みに感謝すると共に工事の安全と無事完成に導いていただくことを祈願しました。

家づくりに直接参加したという満足感が施主にとってマイホーム実現への第一歩として心に深く残る思い出となり、完成した家を末永く愛（いと）しんでいただけるようにとの願いが込められています。

道路を隔てた敷地の東側には田園風景が広がり、八甲田連峰が望める景勝地であり、それを活かすべく建物の向きや窓の取り方に配慮しました。景色を満喫しながら清々しい空気とバーベキューも楽しめるウッドデッキを設けました。

破風にヒバ材を使用した軒は深くし、切妻屋根の伸び伸

びとしたフォルムになっています。屋根と一体にした「ミセ風の土庇（どひさし）」を支える柱は4寸5分角の腐りにくい県産ヒノキを使っています。

床板には足腰に優しい柔らかく温かいスギ材を使用、壁は珪藻土クロス、居間回りの天井板にもスギ材を使用しており、自然素材に囲まれた木の香溢れるゆったり和める安心感のある空間になっています。

2階の床を支える大断面の梁は県産赤松、それを支える8寸角の大黒柱ともう一方の8寸角の柱はスギを使用しています。階段の段板は上り下りが安心な堅木のセン材を使用しています。

暖房はヒートポンプ式温水暖房システムと薪ストーブを併用していて、停電時にも対応可能としています。また、給湯システムもヒートポンプ式電気給湯機を設置し、できる限りの低炭素住宅を目指しました。



ゆったりと和める安心感のある空間が広がる吹抜



講評

コンテストの審査項目である、県産材を積極的に活かす工夫や技術、住宅内部の安全・健康・快適な生活での木づかい、あおもり産木造住宅としてのスタンダードモデル性で高く評価され、特別賞に選ばれました。

(川島委員長)



- 所在地／南津軽郡藤崎町
- 県産材使用量／32㎡
- 県産材使用率／93.9%

- 応募者／青森スギで家を作る中南地域会
住所／〒036-8002 弘前市駅前二丁目20-17(弘前建築組合内)
TEL.0172-33-2995 FAX.0172-33-0266
- 設計者／有限会社木戸建築設計事務所
住所／弘前市大字八幡町二丁目4-5 TEL.0172-33-0969
- 施工者／株式会社佐藤建設
住所／弘前市大字宮館字房崎41-8 TEL.0172-97-2456
- 木材調達先／青森県森林組合津軽木材流通センター
TEL.0172-52-5011

作品
木とふるさとに親しむ
人生のセカンドハウス



■所在地／三戸郡五戸町
■県産材使用量／15㎡ ■県産材使用率／100%
■施工者(応募者)／有限会社赤穂工務店
住所／八戸市大字石手洗字油久保6-10
TEL.0178-96-5510 FAX.0178-96-4079
■設計者／アルゴ建築計画室
住所／八戸市石堂二丁目1-29 TEL.0178-20-4888

ふるさとを離れ、都会で長く暮らしている御夫妻が帰郷のために建てたセカンドハウスです。八甲田山が見えるふるさとの風景と自然の木のぬくもりにつつまれながら、お孫さんと遊び、御親戚と集うひとときを楽しみます。

外観は、スギの下見板を外壁に張り、軒を深くした切妻屋根の端正な姿が、緑あふれる高台になじむ自然な佇まいとなっています。玄関に入ると木の香りがやさしく包み、透かしの格子戸を爽やかな風が吹き抜けていきます。その格子戸を開けると、太いアカマツの梁が見える木組みの天井とともに、居間から奥の和室までつながる大きな空間が広がります。

作品
Muchaと暮らす
エコの家

オーナーご夫婦の考えは、建物はデザインや機能だけでなく、エネルギーを少なくすること、建てるときも、維持するときも低炭素であること、それでいながら、住環境は住みやすいこと、Mucha(アルフォン・マリア・ミュシャ＝アール・ヌーヴオーを代表するグラフィックデザイナー)の美術品と暮らせること。

エコキュートとパネルヒーターを使った輻射式冷暖房を採用し、太陽集熱温水器と連結させてボイラーの稼働率を下げ、貯湯タンクで暖めたお湯をため、そのお湯を使い太陽熱で融雪するシステムを導入しています。(関連22ページ)



■所在地／青森市 ■県産材使用量／36.3㎡ ■県産材使用率／82%
■設計者(応募者)／稲見建築設計事務所 住所／青森市佃1-5-7 TEL.017-742-2636 FAX.017-742-2637
■施工者／オオデラ工務店 住所／黒石市大字浅瀬石字滝ノ口150-8 TEL.0172-53-6266

作品
命を守る住まい



■所在地／八戸市
■県産材使用量／38㎡ ■県産材使用率／100%
■施工者(応募者)／有限会社岩木建設
住所／十和田市大字洞内字井戸頭175-1
TEL.0176-27-2906 FAX.0176-27-3259
■設計者／設計工房プランズ
住所／上北郡七戸町字七戸271-4 TEL.0176-62-4013

外観は現代風を出来るだけ落ち着かせた色合いの塗りにし、南面の下屋は軒桁の太い長材の丈夫で堅いクリで支えています。

玄関の入り口には細やかな格子を取り入れ、さりげない目隠しが穏やかな周辺の街並みとなじむように“和”を取り入れています。土台は青森ヒバ、躯体はスギの4寸柱・桁・梁など県産材をふんだんに組み入れています。

内部の床はスギと青森ヒバ、梁はアカマツ、柱はスギ、壁はスギ・青森ヒバ・塗り壁です。住む人が安心できるように、適材適所に吟味した木を選び抜き、職人魂が行き渡った、手造りの木の家です。

作品
木々に守られて暮らす
ホットと和らぎのある住まい

外観は、ごく自然な住宅ですが、玄関を開けると県産材の心地いい空気が心と体を癒してくれます。

床材は、無垢杉材を使い、素足で体感するとそのやわらかさがよく分かり、夏はさわやかでべたつかず、冬は蓄熱して温かい感覚を実感できます。また、造作家具・建具はすべてタモ集成材で統一しました。特に、2階書斎の一枚板のヒバデスクカウンタは、ご主人のご要望で8か月かけて見つけた逸材です。

自然の光や風を全面に取り入れるパッシブ設計で、開口部サッシの位置、大きさ、形などを変えることで夏のエアコンの消費電力をより節電できます。



■所在地／弘前市
■県産材使用量／35.06㎡ ■県産材使用率／76%
■施工者(応募者)／有限会社キーポイントホーム
住所／弘前市城東中央2丁目3-2 サンケイビル101
TEL.0172-29-1030 FAX.0172-29-1036
■設計者／住環境企画事務所 リビングパートナー
住所／弘前市泉野4丁目4-2 TEL.0172-26-7808

作品 素材を味わう家

この家に使用されている木材は全てが青森県産材である。スギをメインに樺や松を随所に使い、無垢材のままの美しさを最大限に活かした住宅である。

スラブヒーターを採用したことにより杉材はじんわりと暖められ、真冬でも素足で過ごせる快適さを実現した。

手作りにこだわり、樺を天板にした洗面台、杉を使ったシステムキッチンなど住宅設備までも無垢材で作られている。

時間が経つほどに味わいが出てくる無垢材の家。

素材を存分に味わうことのできる家である。(詳細50ページ)



■所在地／八戸市
■県産材使用量／39.77㎡ ■県産材使用率／100%
■設計・施工者(応募者)／建築組ボックス有限公司
住所／八戸市新井田石動木平1-1
TEL.0178-25-6020 FAX.0178-25-5542

作品 北側リビングの家



■所在地／青森市
■県産材使用量／53.5㎡ ■県産材使用率／100%
■設計・施工者(応募者)／企業組合県木住
住所／青森市松原1丁目16-25 青森県森林組合会館2F・3F
TEL.017-732-5333 FAX.017-732-5777

幹線道路沿いに建ち、大きな屋根がとても印象的です。南側に面したポーチとなるウッドデッキは、おばあちゃんの憩いの場。お友達が訪ねてきても、玄関からではなく、そのまま窓を開けて話をする事ができます。天気の良い日は、日向ぼっこにもちょうど良い空間です。

あえて北側に設けたリビングからは、田園風景を望むことができます。季節の移ろいを感じながらくつろぐことができます。

明るい階段をのぼると、景色のいい書斎と個室があり、暗く締めつくイメージの北側が、とても気持ちのよい空間になっています。(詳細54ページ)

作品 スマートに暮らす

お施主様の希望は①薪ストーブ②ステンレスのキッチン③ベランダの物干し④浴室の乾燥機——でした。コンパクトな中にこれらを盛り込み、必要なスペースはしっかりと確保しました。

玄関土間に薪ストーブを設置することにより、寒くなりがちな玄関を暖かく、そして引き戸を開けておくとりビングに広がり生まれまます。その暖かさは、小さな吹き抜けを通して2階にも広がります。

間取りが決まる頃に間伐体験としてお施主様が伐り倒したスギの木は、通し柱と玄関の式台になり、常に家族を見守る大黒柱となりました。(詳細58ページ)



■所在地／南津軽郡藤崎町 ■県産材使用量／24.1㎡ ■県産材使用率／100%
■設計・施工者(応募者)／企業組合県木住
住所／青森市松原1丁目16-25 青森県森林組合会館2F・3F TEL.017-732-5333 FAX.017-732-5777

作品 南部あかまつ 自然の家



■所在地／八戸市
■県産材使用量／37㎡ ■県産材使用率／100%
■設計・施工者(応募者)／小林建設株式会社
住所／八戸市大字糠塚字大開2-11
TEL.0178-45-1377 FAX.0178-47-1785

地域・風土に合ったアカマツとスギ天然乾燥無垢材を中心に、県産材をふんだんに使うことによりCO2削減に繋がった、省エネモデル住宅。この住宅の特長は、外観の屋根の破風板には一枚の長板を使用し、木を魅せる空間にこだわり梁や柱などの構造材を表に見せる真壁造りです。

小上がりの和室の梁に使ったアカマツは樹齢80年。一歩中へ入れば、その梁が和室リビングまで延びていることに圧倒されるでしょう。

自然素材を最大限に活かす大工職人ならではの「技」と、地元大地で育った木の大きな力を借り、世代を超え長く住み継がれる家の誕生です。

作品 板土間のある家



■所在地／弘前市
 ■県産材使用量／22㎡ ■県産材使用率／91%
 ■施工者(応募者)／有限会社桜庭工務店
 住所／弘前市外崎4-2-6
 TEL.0172-27-4320 FAX.0172-27-4325
 ■設計者／有限会社桜庭工務店2級建築設計事務所
 住所／弘前市外崎4-2-6 TEL.0172-27-4320

栓、ダボ、ワタリアゴ、金輪継ぎなど、日本の伝統的技術を駆使し、県産材をふんだんに使用した、木組みの見える家です。

この家の一番の特徴は家の中の外部空間である「土間」です。趣味で通じ合うお施主様より設計ご依頼を受けた瞬間に、浮かんだのがこの「土間」でした。家族玄関でもあるこの「土間」の使い道はいろいろ、私はこの家の「土間」の使用用途を考え、床材を足腰に優しい栗のフローリングにしました。居住スペースの床材に採用した、スギのフローリングと共に、使い込む程に味わいが出てくることでしょう。(詳細62ページ)

作品 真つ白な しつつかいの家



■所在地／青森市
 ■県産材使用量／26.3㎡ ■県産材使用率／100%
 ■設計・施工者(応募者)／日野建ホーム株式会社
 住所／青森市柳川1丁目2-62
 TEL.017-723-6161 FAX.017-723-6166

「家族の健康を一番大切にしたい」「快適な空間にしたい」「手造りのモノが似合う家になりたい」という想いでつくられた家です。

空気をきれいに浄化してくれる「しつつかいの壁」をほとんどの内壁・外壁に使用しています。団欒の場所には「青森杉の梁」をあらわし、天井に板を張り、木の温もりと安らぎを感じられる落ち着いた空間にしました。

構造は土台に「青森ヒバ」、柱や梁、その他の部分に「青森杉」と、構造のほぼ全てに青森県産の木材を使用。また、耐震性や躯体の劣化への対策にも配慮しています。(詳細74ページ)

作品 大好きな花と木の家



■所在地／むつ市
 ■県産材使用量／19.5㎡ ■県産材使用率／72%
 ■応募者／Sさん
 ■設計者／秋濱雅夫
 住所／むつ市緑ヶ丘31-9 TEL.0175-33-3144
 ■施工者／株式会社むぎざわホーム
 住所／むつ市緑ヶ丘31-9 TEL.0175-33-3144

ヨーロッパ旅行でとりこになった「花で飾られた住宅」への思いと、長くかかわってきた森林・林業への思い。羽柄材に県産スギ乾燥材をしっかりと使うことで、二つの思いを形にすることができました。表面に見える部分では、和室の床柱にカリン、ケヤキ、落とし掛けにイチイ。さらに、障子と天井の飾り枠、リビングの小上がりにはヒバと、ポイントを絞りながらもこだわって木材を使用しています。「シンプルモダン」をコンセプトに、「生活のしやすさ」も大事にするため、小上がりには引き出し、中二階の下には大量の収納庫を作りました。

大好きなものに囲まれて暮らす毎日が始まります。

あおり産木造住宅コンテスト 実行委員会

青森県木材利用推進協議会、(社)青森県建築士会、青森県森林組合連合会
 (社)青森県建築士事務所協会、青森県木材協同組合、青森県森林整備事業協同組合
 (社)青森県林業会議、青森県建築住宅課、青森県林政課(順不同)



県産品PR用イメージキャラクター決め手くん

2011年度
第4回
あおもり産
木造住宅
コンテスト

県産材の家づくり“激励”

最優秀賞
大山建工

県庁で表彰式開く

県産材を使用した木造住宅の普及による地産地消の推進を目的に、県などが実施した「第4回あおもり産木造住宅コンテスト」の表彰式が2月6日(2012年)、県庁で開かれた。応募



(中央左から)表彰状を手に山本所長、大山社長、岩木社長、木戸会長



県産材を使用した住宅建築の普及に期待を寄せる三村知事

作品『青森杉が活きる家』で最優秀賞に輝いた(株)大山建工(本部「八戸市河原木字千刈田」)の大山重則社長に対し、三村申吾知事が表彰状を贈呈した。大山建工の最優秀賞受賞は3回目。また、優秀賞の(有)岩木建設(十和田市、岩木勝志社長)と、(有)山本プランニング一級建築士事務所(青森市、山本潤児所長)、特別賞の青森スギで家を建てる中南海域会(弘前市、木戸繁会会長)には、コンテストを主催した県や建築士会などで構成する実行委員会の駒井修一会長が表彰状を手渡した。

コンテストの対象となった住宅は、青森認証推進協議会が認証する認証県産材を0・1㎡/㎡(木材使用量のおよそ50%に相当する量)以上使用した新築の



三村知事(右)から最優秀賞の表彰状を受け取る大山社長

1戸建てで、募集に対し15作品の応募があった。審査に当たった川島芳正委員長は、提出された書類や写真をもとに、間取りなどの設計及び内装・外観の印象や、県産材を積極的に活かす工夫や技術などについて審査した経緯を説明。その中で大山建工の『青森杉が活きる家』は、書類審査と、2011年10月に青森市の産業会館で開かれた大農林水産祭での一般投票による公開審査、今年1月の現地審査および最終審査でも高い評価を得、最優秀賞に輝いた。

三村知事はあいさつで、「今回、県産材で家を建てていただいた施主様にまず感謝を申し上げます」と述べた上で、「青森県

の豊富な森林資源を住宅建築に活用する地産地消の取り組みは、森林整備の推進や林業復興など地域の環境づくりと経済活性化に大いに貢献するものです。今後も施主様の理解を得ながら、県産材の家づくりが活発に展開されることを願います」と期待を寄せた。

地域経済活性化めざす

大山社長は受賞に対し、「住宅コンテストは県産材の家づくりをPRする良い機会です。県産材へのこだわりは地域経済の活性化につながりますので、一層意欲を持って取り組んでいきます」と抱負を語った。

一方、優秀賞を獲得した岩木建設の岩木社長は、「県産材の魅力を打ち出した家づくりを、お客様を巻き込んで増やしていきたい」、また一級建築士の山本所長は、「県産材を使うとともに、住まいの低炭素化を積極的に図っていきたい」と意欲を示した。特別賞を受賞した中南海域会の木戸会長は、「会としての8年にわたる活動が評価されました。これを励みに今後も地産地消の家づくりに取り組んでいきます」と喜びを語った。

あおもり産木造住宅コンテスト 実施にあたって

あおもり産木造住宅コンテスト実行委員会 会長
青森県木材利用推進協議会 会長

駒井 修一

あおもり産木造住宅コンテストは、県産材の地産地消の推進を図り、県民の皆様にも、青森県産材を使用した住宅の特徴や、それを造りあげる大工職人の高い技術を広く知っていただくために、平成20年から開催しており、今回で4回目となります。

県が行いました県政モニターアンケート調査によりまず、県産材を使った木造住宅について、ほとんどの方が「健康に良さそう」、「住みやすそう」、「ぬくもりを感じる」などのイメージを持っており、また、住宅を新築、増改築する際には、9割近くの方が、「県産材を使用したい」と回答し、県産材住宅に多くの期待を寄せています。

県産材を住宅建築に使用す

ることは、林業・木材産業の振興はもとより、地元森林の整備が促進され、地球温暖化防止にも貢献します。

この作品集をご覧になった皆様には、青森県のみどり豊かな森林や自然環境を未来に向けて、守り、育て、伝えていくために、「私たちがができること」を、あらためてお考えいただければ幸いに思います。

今回、応募してくださった作品の施工主、設計事務所、工務店をはじめ、イベントでの一般投票に参加してくださった皆様、御指導・御協力いただいた関係各位に対し深甚なる敬意と謝意を表す次第であります。

審査全般について

あおもり産木造住宅コンテスト 審査委員長
社団法人青森県建築士会 会長

川島 芳正

審査委員会では、提出された書類や写真をもとに、間取りなどの設計及び内装・外観の印象などの「敷地全体を通じた住宅の周辺環境や景観への木づかい（配慮）」、「住宅内部の安全、健康、快適な生活への木づかい（配慮）」、「県産材を積極的に活かす工夫や技術」、「地域の気候風土、地球環境への配慮や貢献」、「あおもり産木造住宅としてのスタンダードモデル性」の5項目について審査いたしました。

の状況、「外観の印象」、「内観の印象」の3項目の評価をし、1次審査の結果と合わせまして、最終的な審査といたしました。

今回、応募された15作品は、どれも県産材の魅力を存分に引き出したすばらしい作品で、設計からは住まい手を感じる気持ちは感じ取られ、施工からは木の良さを活かす高い技術が見られました。

また、木材と他の素材を融合させ、木材の持つ良さを引き出している作品や、地域の気候・風土への配慮では、庇に工夫をすることにより日射をコントロールして冬でも暖かい光を感じることができている作品、地元の木材をバランス良く多用している作品が多くありました。

上位となった3作品について、実際の建物を見ながら2次審査を行い、「設計趣旨と現地

いたしました。

審査を行

いたしました。

